

第300号・2026年7月25日 (土)
発行・東北大学職員組合書記局
〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1
内線 片平 (91) 5029
022-227-8888 (TEL) 022-227-0671 (FAX)
<https://tohokudai-kumiai.org/>
編集・コア編集委員会



*働きやすい職場を
めざそう
*大学はふたたび
戦争に加担しては
ならない



片山知史執行委員長

方針を示していま
したが、学内議論
を全く経ずにこっ
そり軍事研究を解
禁してしまいました
た。組合は202
5年9月に声明を
発表し、当局に対

東北大学の国際卓越
研究大学としての助成
が開始され、2025
年度の助成金は154
億円という巨額なもの
となりました。しかし
なぜか、人件費が足り
なくなるといふ事態を
生じさせ、部局の教員
ポイントを出させる方
針が示されています。
破格の数値目標の達成
のため、また新たな教

定期大会の議案書で
は、毎年生じている雇
止めや解雇の問題、病
院不払い賃金問題、軍
事研究問題などの経緯
を報告し方針を提案し
ます。組合組織につい
ては、組織率減少に歯
止めがかかり、勧誘活
動の成果が得られてい
る状況です。引き続き
積極的な勧誘活動、宣
伝活動を展開し、組合
員拡大のとりくみを提
起します。支部におけ
る検討と積極的な議論
をお願いするとともに、
学内世論を引き起こし
要求実現にとりくみ、
さらには組合員拡大に
つなげていきましょう。
2026年期も、現
場の要求に基づく雇用
安定、待遇改善、要求
実現、働きやすい職場
作りのためにとりくむ
所存です。大会におけ
る積極的な議論をよろ
しくお願いいたします。
(執行委員長
片山知史)

7月25日定期大会 大学の民主的運営 雇用の維持 働きやすい職場をめざして

国際情勢および東北大学の情勢が大きく変わっ
ている状況ですが、大学の民主的運営、雇用の
維持、働きやすい職場作りをめざします！

東北労金をご利用ください

※コンビニエンスストア等の

ATM引出し手数料

実質〇円

※住宅ローンや車のローンなどの各種ローン

組合員は金利引下げ！

教職員共済

教職員のための制度です

教職員賠償	⇒総合共済
病気・ケガ	⇒トリプルガード
ケガ・賠償	⇒レスキュースリー
災害	⇒火災共済
リタイア後	⇒年金共済
死亡・重度障害	⇒新・終身共済
自動車事故	⇒自動車共済
・・・	自動車共済は
『事故あり等級表 (二重の負担増)』なし	

大学病院の医療職員の未払い賃金問題について

アンケートでは移動時間30分以上

所定の制服や作業服を着用する職場は多いですが、その着替え(更衣)については、使用者から明示又は黙示に義務づけられていた行為であると認められる場合には、労働時間にあたりません。着替えの時間を労働時間と認めた裁判例も多くあります。したがって、「着替えの時間について賃金が支給されていない」という場合には、未払い賃金が発生していると判断されます。

組合は2019年に東北大学病院の医療職員の方々にアンケートをお願いし、672名の方から回答をいただきました。その結果、着替えやカルテ読みの情報収集および更衣室からの移動に、平均すると始業前25分、終業後15分かかっていることが判明しました。そこで、2022年12月の団体交渉においてその事実を質したところ、

「着替えは労働時間に含まれることを当局が認めました。すなわち長年、着替えや情報収集に費やしていた時間については、賃金未払いだったということです。当局は2024年12月、ようやく支払いの方針を示しましたが、着替えのみの1日あたり10分間分、しかもたった1年間分の支払いでした。着替えだけでも前5分、後5分では到底足りないでしょう。」

もちろん組合は、アンケートに基づき一日あたり40分間、また賃金請求権の消滅時効期間を参考に3年間分の支払いを要求しています。2026年3月の団体交渉において組合は、要求を引き下げる考えはないが、まず10分1年間分を支払うよう求め、いつ支給するかを問いました。しかし当局は、組合と妥結しなければ支払わないと発言。「組合が妥結に応じないから」という脅迫的な姿勢を示

しました。そこで2026年5月に再び医療職員へのアンケートを行ったところ、509名からの回答があり、今でも着替え、移動時間に30分以上を要していることが判明しました。組合は、顧問弁護士や労基署とも相談しながら、早期の支払いを要求していきます。

(執行委員長)

片山 知史

第71回日本母親大会in宮城

9月12日(土)・13日(日)

コア300号発行おめでとう

私は87・88年度の執行委員長を務めました。一色刷りの硬い感じの『東北大職組新聞』に、88年1月から『コア』の愛称が付いた時です。今はカラーで写真も多い新聞に変わりましたね。でも、変わらない点もあります。それは学内や他大学の正確な情報を提供することです。教職員は意外と学内外の正確な情報に接していません。『コア』の情報提供のさらなる強化を期待します。

(元執行委員長 吉田正志)

祝 欠号もなく、発行遅延もなく、300号発行。偉業だと思います。編集を主導する高橋京さんの気力・体力に感謝です。みやコアですね。

(現執行委員長 片山知史)

祝 組合書記として35年間、「コア」とともに歩んできました。一色刷りだった紙面はカラーになり、写真も増えて親しみやすくなりましたが、教職員に正確な情報を届けるといふ役割は今も変わりません。欠号も発行遅延もなく300号を積み重ねてきた歴代の編集担当者の皆さんに心から敬意を表します。これから「コア」が教職員に親しまれ、信頼される情報紙として発展していくことを願っています。

(書記 小野寺智雄)

全大教第59回定期大会

軍事研究への懸念

7月11日に、オンラインで開催されました。代議員数77名うち出席が54名でした。

議案(2026年度納入人員、2025年度決算、2026年度運動方針、2026年度予算等)は、全て承認されました。

度補正予算として3兆1135億円が措置されましたが、それらはガソリン代等の負担軽減に充てるもので、国立大学等への運営費交付金は措置されませんでした。

近年、財政状況を理由に人事院勧告にもとづく給与改善を4月遡及としない大学が増加しています。2023年度までの数大学から、2024年度は31大学が適用時期を12月以降や2025年度からとしました。文科省はこうした状況のなか、人件費に充当できる運営費交付金として2025年度の補正予算で措置したものの、25大学とともに、そのよう

とはならない厳しい状況でした。交渉を重ねて改善を積み上げた単組もあります。2026年の人事院勧告も引上げが予想されるため政府の責任において運営費交付金の増額による財源確保が重要です。

その他、名古屋大学における大学祭への自衛隊ブース出展問題については、大学の教育への政府圧力、組合活動の萎縮、軍事研究解禁といった視点からの問題提起がありました。

な職場づくりが求められます。組合員の減少が続いており、現在約5000名を下回っています。オンラインでだいぶ経費が削減されていますが、全大教の財政状況は非常に厳しく、今期も単年度赤字であり、数年後には繰越金が無くなってしまう見込みです。各単組が組合勧誘を強く進める必要があることを改めて認識したところです。よろしくお願いいたします。(執行委員長 片山知史)

ふたたび戦争を繰り返させない集り

日時：8月15日(土) 14時～16時

場所：エル・パーク仙台セミナーホール

講師：小野寺義象氏(弁護士)

④季刊で発行している「コア」が300号をむかえたことは本当に素晴らしいことだと思います。組合離れ、機関紙離れが進む中、編集委員、組合役員みなさまのご努力に敬意を表します。「コア」はいろいろな話題を載せると同時にたたかう労働組合の活動を支えています。非正規職員の雇止め問題では、その内容を伝え運動を進めるうえで大きな役割をはたしました。「コア」がこれからも読者の要求にこたえて発展していきますようお祈り申し上げます。

(日本機関紙協会宮城支部長 斎藤 善勝)

④長年にわたり組合新聞の政策に携わってきました。その間、編集委員会が発足し、公募によって新聞名「コア」も決定しました。

連載「編集委員のちょっととこまで」では編集委員共通の趣味である山登りをはじめ、遠方で働く組合員を訪ね、理学支部の浅虫海洋生物学教育研究センターや農学部支部の女川フィールドセンターなどを取材しました。地震後の女川では津波被害の実情を見聞きし、冷夏の年には米づくりの現場も取材しました。

「コア」は職場や地域をつなぎ、仲間づくりにかけせない大切な存在です。(元編集委員 高橋忠雄(工学部支部))

ひきだし

「集団的」な記憶

文科系支部 黒瀬一弘

個人と同様に、国家

や社会にも「集団的」な記憶と呼ぶものがあるのではないかと、もしそうだとすれば、集団的な記憶は個人の記憶よりも脆いのではないかと最近、よく思う思います。

大国の行動が世界に大混乱を引き起こしています。それは集団的な記憶が失われたからだと考えています。大戦間期の米国は、大戦として他国と協調することを知らず、独断的な商業主義に走りまわった。国際協調を欠くどころか、世界が不安定になるかを記憶した米国は、第2次大戦後、ヘゲモンとして自らの利益を確実にしつつも他国と協調し、妥協もし、世界の安定化に寄

与してきました。

昨今の米国は他国と協調することをやめ、国際関係を「ディール(deal)」と表現し、商売の延長であるかのように振舞い、大戦間期に回帰してしまっ

たように感じます。自国の大戦間期の行動とその帰結を記憶している人々が多くいるにもかかわらず、集団としての米国はその時代に得た教訓を忘れてしまったのです。中国の台頭に直面し、米国に協調を先導する余裕がなくなっことは事実です。しかし、現在の米国の行動が唯一の解決策ではないです、ましてや賢明な策ではありません。

いきました。それは正しい認識ですが、直面した問題への策はほとんどの場合1つではありません。そして、社会は安易な策を選択しがちで、ときに安易であるほど大きな危険を伴います。そうした選択を回避させるのが、個人の理性とは別に存在するいわば「集団的」な理性ではないでしょうか。理性的な個人からなる集団が理性的であるとは限りません。時代が変わり、大学も大きく変わりました。大学人の集団的な記憶において重要なことを喪失していないでしょうか。大学人の集団的な理性は健全に機能しているのでしょうか。



宮城一般女性センター
& 県労連女性部共催
バスハイク 7/5

猪苗代湖周辺を訪ねて



屋根で覆われていた生家

宮城県で小学生を過ぎた方なら、修学旅行で必ず見学する野口英世記念館を訪ねました。

まさにその修学旅行以来だという参加者もあり、その当時とは違う立派な施設に驚いていました。生家は屋根で覆われ、隣接する展示の内容は非常に充実

していて、全てを丁寧に見るには時間が足り



世界に一つだけのガラス

ず「また今度ゆっくり来よう」と思う参加者も多かったようです。

お昼は向かい側の猪苗代地ビール館で(なんと試飲ビールつきで)いただき、午後からは隣接する世界のガラス館でエッチンググラス体験をみなさん夢中になつてとりくみ、思い

した。

梅雨時の開催で駆け足の見学体験でしたが、お天気にも恵まれ、非常に充実した内容で40

名の参加者は大満足。幹事の方々に感謝の一日でした。

(多元研支部 後藤 洋子)

編集後記

文部科学教育通信「異見交論」に掲載された、国際卓越研究大学制度をめぐる東北大学教員有志の座談会を読んだ。現場との十分な対話を経たのかという疑問、教育と研究の関係、若手研究者への支援など、大学の将来を考える極めて重要な論点が率直に語られている。これは座談会であり、現場からの問題提起である。制度全体の結論ではない。大学執行部の説明や客観的データ、学生・教職員の声などとあわせて今後も丁寧に検証を重ねることが大切だ。大学改革は長い時間をかけて評価される。賛否を急がず、異なる立場の声に耳を傾け、事実に基づく議論を積み重ねる姿勢が、いま大学に求められているのではないだろうか。

(編 〇)